



石匠館 (せきしょうかん)

日本で初めてのめがね橋や石工技術のユニークな資料館として生まれたのが「石匠館」です。

石匠館が所在する地域は、かつて種山と呼ばれ、熊本を代表する名石工を数多く輩出した地域として有名です。

館内には各地のめがね橋の紹介、岩永三五郎や橋本勘五郎といった石工に関する展示や石工の技術に関する解説などがあります。めがね橋を架ける際の様子や石工たちの苦労や工夫などを学ぶことができ、日本遺産「石工の郷」のストーリーを深く知ることができます。

また、石匠館の建物はめがね橋の材料としても使用されている、地元産の凝灰岩を用いた壁面と丸屋根が特徴的で建築家・木島安史氏的设计で建てられました。この建物はくまもとアートポリスで特に優れた建造物としても表彰されています。

- ◆住所 〒869-4302 熊本県八代市東陽町北98-2
- ◆お問合せ TEL:0965-65-2700
- ◆アクセス 車 九州自動車道八代ICから約20分 松橋ICから約30分 宇城氷川スマートICから約15分
JR 鹿児島本線有佐駅からバス約15分 タクシー約10分
- ◆開館時間 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
- ◆休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)12月29日～1月3日
- ◆観覧料 大人310円 高・大学生200円 小・中学生100円



お祭りでんでん館 (八代市民俗伝統芸能伝承館)

八代市に残る多様な民俗文化財の保存継承と魅力を発信するとともに、祭りや伝統芸能を支える後継者育成の場としての役割があります。

八代妙見祭や神楽、棒踊り、女相撲など市内各地に伝承する民俗文化財の魅力を紹介する展示棟の他、日本遺産に関する展示、妙見祭に登場する獅子や笠鉦など大切な文化財を適切な環境で保管するための収蔵棟、祭りや伝統芸能の練習の場として活用できる伝承ルーム及び会議室を備えた一般の方も有料で利用できる会議棟があります。

- ◆住所 〒866-0863 熊本県八代市西松江城町1-47
- ◆お問合せ TEL:0965-37-8737
- ◆アクセス JR 八代駅よりタクシー約10分
八代市役所より徒歩約5分
- ◆開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(月曜日が祝日等の場合は翌日)、12月29日～1月3日
- ◆観覧料 大人300円 高校・大学生200円 中学生以下無料

アクセスマップ



熊本県南部に位置し、県内第2位の人口を抱える八代市。八代の人々は、阿蘇山の噴火活動により堆積した凝灰岩や良質な石灰岩の地層が点在する環境を活かし、古来より地域で採れる石材を活用したまちづくりを行ってきました。八代城の石垣、干拓樋門、石積みの棚田、めがね橋など、八代各地に現存するこれらの石造り建造物の数々は、多く石工を輩出した「石工の郷」の風土が、この地で脈々とはぐまれてきたことを物語っています。

お問い合わせ

八代市日本遺産活用協議会 (八代市文化振興課内)

〒866-8601
熊本県八代市松江城町1-25
TEL:0965-33-4533
FAX:0965-33-4516



令和4(2022)年度
文化資源活用事業補助金
(地域文化財総合活用推進事業)



石工の郷 八代

二見地域めがね橋めぐり 散策マップ



八代市日本遺産活用協議会
(八代市文化振興課内)

二見地域めがね橋めぐり散策マップ

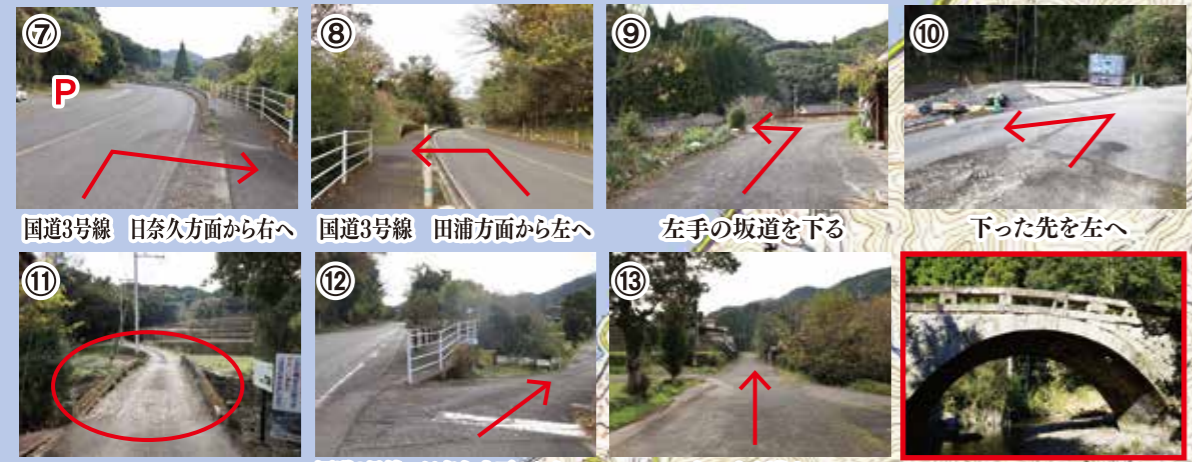
A 床並眼鏡橋



B 新免眼鏡橋



C 赤松第一号眼鏡橋



D 太平眼鏡橋(古橋)



E 太平眼鏡橋(新橋)



B 新免眼鏡橋

C 赤松第一号眼鏡橋

D 太平眼鏡橋(古橋)

E 太平眼鏡橋(新橋)

F 小藪眼鏡橋

G 須田眼鏡橋

G 須田眼鏡橋

A 床並眼鏡橋

F 小藪眼鏡橋



F 小藪眼鏡橋





日本遺産とは

ABOUT JAPAN HERITAGE

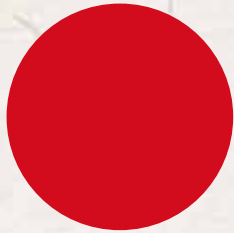


日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組です。

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財(文化遺産)の価値付けを行い、保護を担保することを目的とするものです。一方で日本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている点に違いがあります。

【ストーリー概要】

かつて全国で築かれた「めがね橋」を今も多く見ることができる熊本。それらの多くは八代で生まれ育った石工たちによって手掛けられました。彼らの卓越した手腕は日本各地で必要とされ、「神田筋遠眼鏡橋(万世橋)」や「通潤橋」などの架設を成功に導き、全国に名声を轟かせるまでに至りました。それ故に、八代は多くの「名石工」を輩出した「石工の郷」と呼ばれています。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

二見地域

めがね橋紹介



赤松第一号眼鏡橋

橋長:12.32m 橋幅:3.12m
径間:8.15m 拱矢:3.46m
架橋:不明(江戸時代末頃か?)

旧薩摩街道に架けられた橋で、八代地域に現存するめがね橋の中では珍しく、装飾性に富んだめがね橋である。橋の両側の欄干にやかに湯呑みや扇面、ひょうたん等のいろいろな装飾が束柱に施してある。



大平眼鏡橋(新橋)

橋長:24.57m 橋幅:5.3m
径間:9.07m 拱矢:4.66m
架橋:明治38年(1905)

二見川に架かるめがね橋の中で最大の橋であり、大牟田の実業家圓佛七蔵氏によって架設と石碑に記されている。谷が深く約2メートルの基台の上に整形石材を整然と積んで築かれた、アーチ直径が約9メートルのほぼ半円アーチのめがね橋である。



床並眼鏡橋

橋長:9.68m 橋幅:2.3m
径間:7.29m 拱矢:3.48m
架橋:不明

下大野川に架かるめがね橋であり、県道に架けられた新しい橋から下流に約30mの地点にある。壁石は自然石の乱積みで、石の大きさにはばらつきがある。



新免眼鏡橋(しんめんめがねばし)

橋長:11.93m 橋幅:3.42m
径間:10.14m 拱矢:3.56m
架橋:嘉永6年(1853)~安政年間(1854~1860)の初め頃か?

現存している橋の中で、二見川の最も下流に架かるめがね橋である。旧薩摩街道に架けられており、二見地域に架かるめがね橋の中では比較的扁平なアーチを描いている特徴がある。橋の上面は鉄筋コンクリートで補強され欄干(らんかん)も失われているが、橋の側面には丁寧な石積みが見られる。



大平眼鏡橋(古橋)

橋長:4.98m 橋幅:2.47m
径間:2.92m 拱矢:1.99m
架橋:嘉永5年(1853)~安政年間(1854~1860)の初め頃か?

旧薩摩街道に架けられためがね橋であり、二見地域に現存するめがね橋の中で、最も規模の小さな橋である。



須田眼鏡橋

橋長:11.84m 橋幅:3m
径間:8.37m 拱矢:2.78m
架橋:嘉永2年(1849)頃

二見川の最上流、旧薩摩街道に架けられためがね橋である。壁石は整形石で扇状に積み重ねられているが、橋の両端の一部には自然石が用いられている。



小藪眼鏡橋

橋長:13.45m 橋幅:3.75m
径間:7.13m 拱矢:3.92m
架橋:嘉永5年(1852)頃

大平眼鏡橋(新橋)のすぐ南、旧薩摩街道上に架かるめがね橋である。この橋は、かつて付近の国道3号線を工事する際、ダンプカーを通すためコンクリートにより補強されたため、壁石のほとんどが見えなくなっているが、石積みの一部を今も見ることができる。